

セクシオン2
妻と夫の
人間関係

日本の夫婦は、一人では生活できないほどに、互いに依存しあっているながら、心は通じあっていないと指摘されています。
その辺を、富岡孝編集員にレポートしてもらいました。

夫婦は、愛情を基盤に、自立した男女の結びつきであるといわれています。

ところが、結婚前は相手を一個の人間として認め尊重し合っていたのに、結婚したとたん、男が主で、女は従といった間柄になり、対等でなくなってしまうのはどうしてでしょうか。

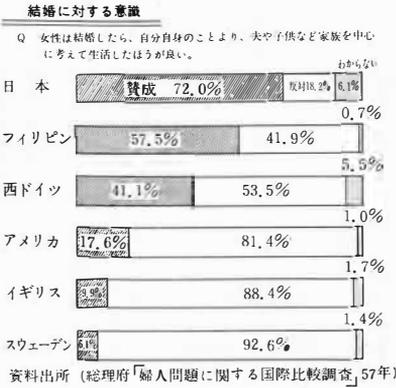
たいいての妻は、夫や子ども親などの家族の状況に合わせた生活を強いられ、自分の欲求や希望する人生を選びにくいのが実情です。
最近、女性に変化してきたと言われていますが、しかし、女性自身の意識に、家事育児など家族の負担を一人で背負い、「夫や子どものために尽すことが最善」とする傾向は、他の先進国に比べて特に高いことが、先頃の「国際比較調査」でも明らかになっています。

日本の家族は、このような妻の犠牲の上に安定しているとさえ指摘されていますが、夫はそれを当

然のこととうけとり、妻の痛みを分かち合おうとはしません。というより、目まぐるしい現代社会は、夫を仕事人間として駆り立て、家庭を「めし、風呂、寝る」だけの場にしてしまっています。

多くの場合、妻とゆっくり話をしたり、愛を確かめ合ういとまもないまま、妻の不満分子の膨張に気づきません。最近、いわゆる「主婦症候群」など精神障害が増えているのも、このあたりに原因の一端があるようです。

幸せそうにスポーツで汗を流しカルチャーセンターへ懸命に通う妻たちは、夫の経済力に寄りかかって、自分だけの楽しみの世界に



浸っている。それぞれが別々に個の世界は持っているても、互いがかげがえのない一人の人間として認めあつて暮らしているのではなく、相手に無関心で、かかわりのない世界として捉え、寝食だけを共にしているにすぎない。そこには夫婦として共通のビジョンも、課題解決の話し合いもなく、お互いに勝手気ままな暮らしを黙認している姿しかないように思えてなりません。

こうした中で、仕事以外には、自分のことさえ何一つできない夫に愛想をつかし、夫の定年を契機に、離婚を考える妻たちもふえる傾向にあります。

しかしながら、女性自身の側も夫の経済力に寄りかかり、気ままに人生の余暇を楽しめばよい、という姿勢を再考し、経済的にも自立できる能力を身につけたうえで、自分の世界を持つといった厳しさを、迫られるのではないでしようか。

これからの夫婦は、単にお互いに不足しているものを補充し合つて生活している、という関係から一歩進めて、自立した者同士が、たがいの世界を認め尊重しあう中で、共通の人生を味わう関係を目指したいものだと思います。

ひとこと
へ一言インタビュー



単身赴任の
体験から
堀部 敏也さん

単身赴任して四年半になりますが、家庭の形態としては異常だと思っています。寮に帰つても、安らぎがなく、とても精神的に負担を感じます。

家族を離れてみて、いろいろ新しい発見がありますが、妻は本当にありがたいと思います。今は、家族間の意志の疎通、父親不在の影響が心配です。はやく一緒に暮らしたいとの願望が強いですね。



言語療法士
(スピッチ・セラピスト)
北野市子さん

大学を選ぶ時から福祉関係の専門職につくことを目指していました。この仕事について四年になりますが、今はこれ続けることを前提に、結婚後の設計を考えるつもりです。

ただ、子どもはできるだけ自分の手で育てたいとも思ったりします。でも、両立は大変だろうと思います。でも、家庭は「茶碗一つ」から二人でつくりあげるものと考えて、何とか困難を切り抜いていきたいと思っています。

セクション3
老親の
扶養・介護

21世紀はお婆さん社会、などと言われています。なかでも、家庭で寝たきり老人の介護をする立場に立たされた女性は、最も深刻な形で老人問題に直面せざるをえません。

家族と老人の問題について、渾美孝子編集員にレポートしてもらいました。

人は誰でも年をとり、時には病いに倒れ、そして死んでゆきます。それ故に、老親の扶養、介護は重要な家族機能の一つとされてきました。

戦前までは、法制度の上でも、長男夫婦が年老いた親のめんどうをみるのは当然で、あえて別に住むということがあれば、それは何か異常なことという目で見られました。

現在でも子ども夫婦と同居している老人は多いが、その率は年々下がってきているのも事実です。別居の場合には、子どもは親を棄てたような後めたさと、親の方は子どもに見捨てられたような孤独感におそわれ、双方の間に複雑な感情の摩擦を生む事もあります。

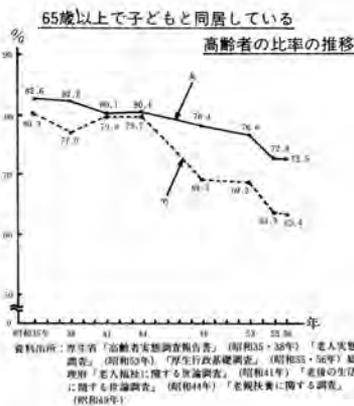
老親は同居によって、経済的にも精神的にも安定が得られ、確かに一つの問題解決にはなりますが、嫁姑の問題など人間関係が複雑に

なることによって、また別の問題が出てくることもあります。

そして何より、特に都市のサラリーマン層にとつては、経済的あるいは、住宅など、物理的な事情と、「家族は核家族であるべきだ」という考え方が一般的になってきたという、気持の問題が重なり、家庭の中に老人を抱えこんでゆくのが当然だという考え方が薄らいってしまったことなども、老親の扶養を難しいものにしていきます。

昭和57年の日本人の平均寿命は男74・22才、女79・66才で、女性にとつては文字通り、人生八十年の時代も目前で、長い老後は誰にもやってくる。

昭和55年の国勢調査からの推計に



よりますと、昭和百年には、高齢者世帯は、現状の四倍以上の1012万世帯、この内、650万世帯は一人暮らしということですよ。

現在でさえ、寝たきり、あるいはボケのため、日常生活に人の手助けを必要とする老人は約60万人いる、ということを考えますと、将来は寝たきりの一人暮らしという深刻な老人の問題もたくさん出てくると考えなければならぬでしょう。

人生の晩年は住み慣れた地域で家族とともに、というのは多くの人の願いです。施設福祉から地域福祉へとという流れも、いろいろな事情はあるにしても、このような人々の願望の上にあることも確かです。

しかし現実には、女性の生き方や価値観の多様化がますます進んでゆくなかで、家族の老人扶養能力はますます弱まってゆくと予想しなければなりません。

急ピッチで進んでいる高齢化社会の入口に立った今、私たちは、親子一子孫と続く家族の自然な連帯感と感情を核に、誰もがかすこしても暮らしやすい老年期を過ごせるように、若いうちから、助け合いの輪を広げる努力を惜しんでほらないと思います。

インタビュー

寝たきりの義父を介護して



野口澄子さん

寝たきりの義父を四年間看んでいます。介護の疲労から血圧が高くなり、医師の勧めで、施設に預かってもらったこともあります。

近くに、短期でもすぐ預ってくれる所があったり、ヘルパーの派遣も気軽に頼めるということになれば、安心して自宅介護ができるのですが。

長期になると、紙オムツ代とか、その他経費が割合かかります。自宅介護だと税金面での考慮がなされないのも不満です。

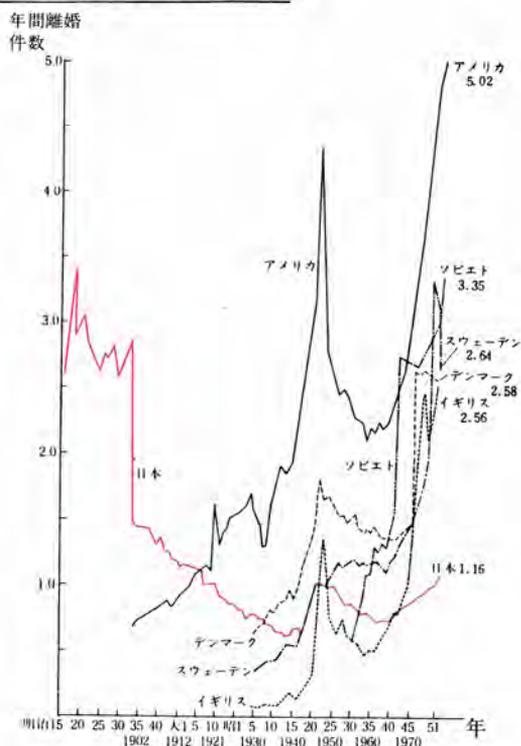


特別養護老人ホーム厚生苑 寮母 木村 清子さん

入所希望に応じきれず、現在も70数名の方が順番待ちの状態です。その為在宅者への入浴サービスや、リハビリ訓練を行っています。家族のために、介護技術の講習会なども実施して、コミュニティケアへの方向にも努力しています。

施設に預けているご家族の方には、一回でも面会を多くして、老人・家族施設の連携を保つ努力をお願いしたいですね。

各国普通離婚率の推移



資料出所 United Nations, Demographic Year Book, Vol. 29, 1977.
湯沢雄彦「各国家族の動向と日本の家族」『コミュニティ55』
(地域社会研究所編)。

新しい家族のあり方を求めて

世界の家族・日本の家族

日本の家族は、世界で、もつとも安定した家族だといわれていま

す。各国の離婚率を比較してみても数字の上では、いわゆる先進工業国の中で、一番低い数値を示しています。

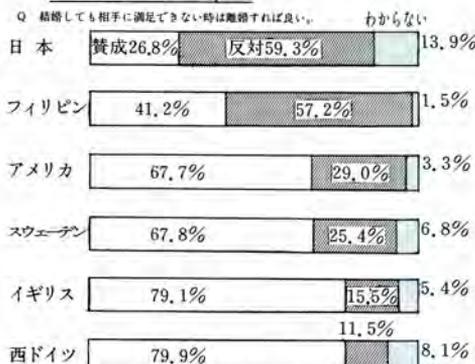
宗教上の問題や法制度の違いがあつて、数字の上だけでは実情はわかりませんが、近年、各国とも離婚率が急上昇しており、家族のあり方が変動しつつあることがうかがえます。

日本だけがなぜ離婚率が低いのでしょうか？、いろいろな理由が考えられますが、女性の意識や考え方の違いもあるのではないのでしょうか。

最近、総理府が行った国際比較調査によると、「女性は結婚したら、自分のことより、夫や子供など家族を中心に考えて生活した方がよい」という考え方に賛成する女性が日本では72パーセントで他の国々の女性と際立った違いを見せています。

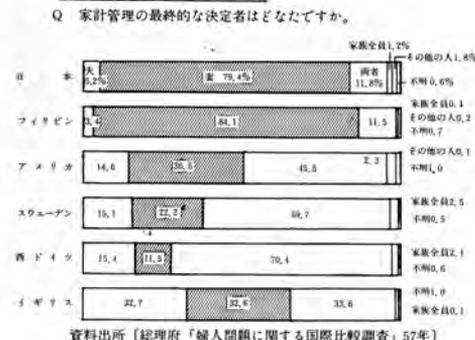
また、「結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい」ということに賛成の女性は、日本で26.8パーセントにすぎないの

離婚観について



資料出所 (総理府「婦人問題に関する国際比較調査」57年)

家計管理権について



資料出所 (総理府「婦人問題に関する国際比較調査」57年)

国では80パーセント近くになっています。さらに、「家庭の中で『家計費管理』の最終的決定者はどなたですか」という問いに対して、日本の女性の79.4パーセントが妻であると答えているのも際立った違いです。

この調査結果から見ると、日本の家族が非常に安定しているのは、日本の妻たちの、自分の個人的欲求を犠牲にして、夫や子どもたちのためにつくすという生き方に支えられたものであるといえます。

そして、こうした生き方を肯定する条件として、家庭内での妻の権限が大きく、安定していることがあげられます。

つまり、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という性別役割分業が諸外国に比べてハッキリしている社会だといえます。しかし、現代の日本の家族が直面している諸問題や、着実に変わりつつある女性の生活と意識の変化は、日本の安定した家族関係の基礎をゆるがす要素となりつつあるのも事実です。

健全な家族は社会の安定の基礎です。しかし、女性を家庭に閉じ込めることによって家族の安定を図ることは困難な時代になっています。

本当に、男性と女性がお互いの人間性を尊重しあえる新しい家族のあり方が、いま、世界中で求められています。

ティータイム



このごろ考えさせられたこと

先日、町内の公園の草刈りに出かけた時、年老いた婦人を見かけた。聞くともなく、その老婦人と若い女性の会話を聞いていると、四人の子どもを残して夫に先立たれてからの身の上話になっていた。女の自立、などと考えるいとまもなく生活をしながらはならなかったこと、今では子どもたちもみな独立して経済的にも誰の世話にもならず一人暮らしを楽しんでいること、若い人の結婚話をまとめたり、ドライブをしたり、等々と話が続き

四十肩は「古い」への警告

四十を過ぎて、さあこれからは自分の人生と遅まきの出発を期していたある朝、腕の重さで目が覚めた。首から左指先へ激しい痛みが走り、動けない。

「四十肩でしょう」と外科医はあっさり診断。

薬も、注射も、マッサージも大した効果はなく、針、灸でようやく痛みが和らいだ時は一か月がたっていた。

四十肩は、骨の老化と筋肉の老化のテンポのアンバランスが引き起こす現象で、時期がきてバランスがとれるようになるまでは治ら

最後に「今は何をしても楽しくてね」と結んだ。

人生の夕暮れ時、健康にも恵まれ、何をしても楽しい、と本心から言える人は何と幸せであろうか。

長い人生を、自ら切り拓いてきた人の満足感をその後姿に見たような気がし、人の晩年は、若い時をいかに生きたかで決まるのだと改めて感じた。

夏草の刈り取られた公園の清々しさの中に来し方を振り返るように佇むその人の姿があった。私自身はどんな老いを迎えることになるのか——と考えずにはいられない。



ないそう。

身体がそここに老いは感じていたものの痛みを伴った老いは文字通り痛烈である。

老親介護を目前にひかえ、昭和十年代生まれの主婦たちの行く手は、高齢化社会の真ただ中で、決して明るいものばかりではなさそう。

六十代の娘が八十代の親を看るとい時代が来ている。国も地域も家庭も、ただ手をこまねいているだけではなく、今すぐにでもできることから行動を起こさなくては。

母と息子の婦人問題

六月の参院選挙後、我が家は、夕食後のひとときをテレビを見て過ごしていた。画面は、次々と当選者の顔を写し出している。すると

「男の人ばかり。女の人を出てこないのかなあ」と小二の息子。

「あつ、やつと出てきたよ。女の人が少ないね、お母さん」と小五の娘。

「女の人も、もつと頑張るといいね、お父さん」と息子。

「そうだね。だけど、女の人は、家族みんなのご飯をつくったりして忙しいんだよ。家ですることがたくさんあるからね」と夫。

現在、女性が社会の才一線で働く場合、「女であること」のハードルは比較的容易に乗り越えることができる時代になった。「80年代女の時代」がマスコミを飾るゆえである。

しかし、「母である女」にとって、このハードルはそり立つように高いのが普通である。「お母さん」が外に出るには、夫や子どもの手助けが不可欠である。

幸い、我が家の子ども達には、また、男だから女だからという意識は薄い。遠い話になるけれど、この子たちが大人になる頃には、状況は変わっているかもしれない。その成否は、今の母親（私）の肩にかかっている、と思うのだが。



行政情報

国・県・市町村の仕事から
 婦人に関係の深い事業を紹介します

県の婦人関係事業—労働部—

県では、働く人達の福祉向上をはかるため、6課33の出先機関が、雇用の安定／職業訓練の充実／労働関係の安定／勤労者の福祉向上／産後後継者の養成などを目標に事業を行っています。

中でも、婦人に関係が深い仕事をしているのは、労働福祉課とその出先機関です。そこで「婦人就業援助センター」を訪ねてみました。

婦人就業援助センター

訪問記

ここでは、①就業を希望する婦人に対する内職及び就業相談、②各種技術講習会の開催を主として行い、他に相談員の研修や各労働行政関係機関との連絡強化などを業務としています。

特に、いろいろな事情で家庭内での仕事を希望する婦人のために左表のような講習会を開いています。

これらの受講生は、県民だよりや、関係する市の広報紙を通じて募集しますが、今年度の年間計画は既に決っているので、関心のあ

静岡県労働部の組織



科目	講習内容
和裁	初級 ひとえの着物の裁ち方、縫い方
	中級 ワールアンサンブルの裁ち方、縫い方
	上級 あわせ長着の裁ち方、縫い方
ミシン縫製	ズボン、スカート、シャツ等の縫製
経理事務	簿記3級程度の知識の習得
あみもの	棒針、かき針によるベスト等のあみ方
フランス刺しゅう	セーター類への刺しゅう技術の習得
ビーズ刺しゅう	袋物等への刺しゅう技術の習得

- 日数 16日～21日(科目により異なります)
- 時間 9時30分～15時30分
- 講習料 無料(一部教材負担あり)

る方は、センターに問い合わせることをお勧めします。

連絡先

静岡県春日町二丁目四の三十四
 電話 0542-15416291

就業情報の提供

その他に、皆さんによく知られている仕事として、職業紹介があり、県下十二の公共職業安定所で行っています。

特に主婦や高齢者が買い物や外出のついでに、気軽に立ち寄れるように、パートやアルバイト情報を中心に、いわば安定所のショールームとして、ターミナル職業相談室や、パートバンクを開設しています。

また、電話による職業紹介情報も常時流していますので、まず出かける前にこれを見てみることをお勧めします。



求人テレホンサービス 公共職業安定所では求職者のために最新の求人情報を提供しています。

テレホンサービス設置場所	電話番号(女子)
三島公共職業安定所	(0559) 87-0150
沼津公共職業安定所	(0559) 32-0317・0117
富士公共職業安定所	(0545) 52-9911
清水公共職業安定所	(0534) 64-9211-3
静岡公共職業安定所	(0542) 53-9131
磐田公共職業安定所	(05383) 5-5241-2
浜松公共職業安定所	(0534) 54-7511-2

ターミナル職業相談室・パートバンク

交通に便利なターミナルにある、いわば安定所のショールーム・パートタイムやアルバイト等の就労希望者には職業紹介を、求人者には雇用相談を行っています。

ターミナル名	所在地(郵便番号)	電話番号
静岡パートバンク	静岡市鷹匠1丁目1-1(新静岡センター6階)420	0542-32-2030 0542-31-1111(1015)
沼津ターミナル職業相談室	沼津市高島町1-5(石橋プラザ4階)410	0559-23-9678